

企業・地域団体・学校様向け

出張版

「防災キャンプそなえ」のご提案

---

～あなたの地域や企業をフィールドに実施  
1泊2日の経験を災害から命を守る一助に～

宮城県防災指導員認定者企画  
主催：一般社団法人南三陸町観光協会  
担当：及川・佐藤

# 大震災を経験したからこそ提供できる災害対応プログラム

2011年東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。その後も熊本地震や台風、土砂災害などが続き、自然災害での被害は後を絶ちません。

関東から九州・沖縄地方までの広範囲での被害が想定される  
**南海トラフ地震**は30年以内の発生確率が70-80%とされています。

南三陸町でも過去にも何度も津波の被害を受け、地震・津波への「備え」は行っていました。しかし、東日本大震災では想定外の津波が甚大な被害をもたらしました。

「2度と同じような思いはしてほしくない」

この震災で私たちが得た実体験から、  
**災害の発生時にできる「備え」**を体感していただきます。

# プログラム概要 ～「知る」から「できる」そなえへ～

## ①インプット→→→学ぶ

東日本大震災を経験した南三陸町の語り手から「事前に想像できなかった」「想定をはるかに超えた」自然災害や避難所生活の実態を学びます。

## ②実践→→→経験してみる

実際に避難場所となる体育館や集会所を利用し、ライフラインが止まって周囲の情報がまったくわからない不安のピークとなっている避難1日目を再現、避難所運営を体験します。非常時での利用を想定した備蓄食料や簡易トイレ等も実際に使用します。

## ③アウトプット→→→次への備えを自分事にする

「もしこの場所で災害が起きたら」を想定したワークショップを実施。実践で学んだことを自分事として**次の災害に備える指針づくり**をします。

# 防災キャンプそなえ で得られること

## ①震災・避難生活を知る・・・

多くの方が経験したことのない大規模な自然災害を知ることが「そなえ」に繋がる第一歩です。

## ②自助・共助・公助・・・

発災時に大切だと言われるキーワードをプログラムの中で考え、いざという時の判断へ繋がります。

## ③状況判断力を身につける・・・

本番を想定したシミュレーション経験があるかないかは、冷静な判断力へ直結します。

## ④チームワーク・リーダーシップを身につける・・・

不特定多数が集まる避難所での生活や運営のために大切なスキルを考えます。

## ⑤工夫する力を身につける・・・

限られたもので、必要なものを作り出す能力は、発災時に大変役立ちます。

# 防災キャンプそなえ モデルコース

時間	実施項目	内容
<b>【1日目】</b>		
13:00	オリエンテーション	東日本大震災時の体験について講話（当方より） 普段の防災意識等のヒアリング
14:00	フィールドワーク	発災時、実際に想定されている避難ルートや避難所、備蓄庫の確認等を行います。
15:30	避難所運営ロールプレイング	運営者、避難者役に分かれ、避難所で起きうる事を体験します。 その場の状況や避難者の要望が常に変化し、その都度の判断が求められます。
16:00	避難所ミッションワーク	ライフラインが全てストップした中で、様々なミッションが与えられます。 参加者で協力し、食事やトイレ、寝床の確保を行います。
19:30	「あの日、あの晩の出来事」	東日本大震災を経験した方が震災直後の大変だったエピソードや 実際に役立ったこと、教訓をお話します。
21:00	1日目終了	
<b>【2日目】</b>		
6:30	シュミレーションワーク	前日の発災や避難所運営、非常食や炊き出し訓練を踏まえ、 企業や地域での備えについて考えるワークショップを実施します。
8:30	そなえ宣言	「いつまでに何をするか」本プログラムで終わらせず、これから実際に 取り組むべきことを「そなえ宣言」で発表します。
9:00	2日間のプログラム終了	

# 実施イメージ



東日本大震災について共有



想定外の出来事にいかに対応できるか



限られた物資をどう利用するか



ライフラインが停止した状況で食事の準備



自分事に置き換え、次に何を備えるか考える



# 防災キャンプ実施実績

実施時期	実施団体
<b>【当町での実施実績】</b>	
2015.10月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2015.12月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2016.6月	建設コンサルティング系企業（東京都）
2016.7月	教職員組合（沖縄県）
2016.8月	高校生団体 （長野県内 社会福祉協議会主催）
2017.8月	教職員組合（沖縄県）
2017.8月	高校生団体 （長野県内 社会福祉協議会主催）
2017.8月	大学団体（愛知県）
<b>【出張での実施実績】</b>	
2018.2月	大学構内での実施（愛知県）
2019年.11月	市・行政区での実施（愛知県）
2022年.10月	市・行政区での実施（愛知県）

「知る」から「できる」そなえへ  
防災キャンプそなえ

日程限定  
1名様～申込み可能！  
前下記日程に限る。それ以外は  
20名様以上の団体で  
お申込みください。

**2017年8月3～4日**  
**2017年8月10～11日**  
**参加者募集中！**

「わかる」から「できる」へ！  
**<南三陸町の防災キャンプの特徴>**  
 ■実際の震災を体験した場所だからこそ伝えられることがあります。  
 ■震災の経験者の生の言葉を伝えています。  
 ■役立つ知識だけでなく、「とっさの判断力」を身につけます。

**<こんな方におススメ！>**  
 ・防災・備えてなんだろう？イライラから体験したい！  
 ・本に書いてある情報ではなく、現場の生の情報を得たい  
 ・実践型防災プログラムに興味がある  
 ・会社の研修に使用できるか体験してみたい  
 ・防災教育を広めたい  
 ・遠発では体験できない「学び」を得たい

このキャンプでは、物置の替えだけでなく、心の備えへ重点を置き、  
 震災を知る人から、本場に役立つ知識とスキルを教えてもらう時間を  
 設けます。  
 今回は日程限定で、1名様～申込み可能ですので、ぜひこの機会に  
 「備え」の準備をしませんか？

募集内容（プログラム詳細は、問い合わせ先までご確認ください）

実施 時期	8月3日(水)18時～ 8月4日(木)18時 8月10日(水)18時～ 8月11日(木)18時	実施 場所	南三陸町の「そなえセンター」（南三陸町立南三陸中学校11号 体育館）※要予約
対象 団体	1名様～申込み可能（日程限定） ※申込要約金3000円（参加費別）の事前申し込みが必要です。	申込 料	0円（無料） ※70歳以上の高齢者、障がい者、生活困窮者の方などは、別途 お申し込みください。
申込 締切	2017年7月14日（金） ※締切後、お申し込みがキャンセルとなります。	申込 先	南三陸町観光協会 事務局 一般社団法人南三陸町観光協会 Tel: 0226-47-2000 / Fax: 0226-46-8280 / Mail: yodaka@kankai.jp

ご希望があれば当協会でも一般参加者を募集することも可能です。  
 団体様の中に知らない参加者が加わることでさらにリアルな状況が  
 再現されます。

# 防災キャンプへ参加した方の声

首都圏でも近いうちに大地震が起こる可能性は高く、各々が心の備え・防災用品の備えをする必要があると思います。どのようなシチュエーションで自分が被災する可能性があるか、またそのための備えについて考える良い機会になりました。

(東京・40代女性)

リーダーの存在が必要だと感じました。実際は他人同士の共同生活の中で、食事や寝床等の個々の要求全てを満たすことは非常に困難と感じました。互いに必要なものを確認し、独りよがりにならないよう協力する姿勢が自分自身に不足していると感じました。

(東京・20代男性)

参加者全員で過酷な共有体験を乗り越えた後の2日目のロールプレイングだったので、多くの意見が出せたと思います。地元での災害を想定することができました。

(長野・高校生男性)

## 【そなえ宣言（一例）】

- ・卒業までに救急手当について学ぶ
  - ・県外の家族と連絡方法を決める
  - ・家族と避難場所を決めておく
  - ・今日からモバイルバッテリーを持ち歩く
- (愛知・大学生)



## プログラム料金 (概算/税込) 来町しての実施に比べ、費用は半分以下！！

項目	金額	備考
プログラムコーディネート料金	@70,000円 (コーディネーター1名の料金)	参加人数により必要コーディネーター数が異なります。 ~30名まで/CDN 5名必要 ~60名まで/CDN 7名必要
旅費交通費 (概算 移動・宿泊含む)	@35,000円 (コーディネーター1名の料金)	30名で東京実施の場合 (コーディネーター人数分の費用が必要となります。)
現地フィールド下見・打合せ料金	50,000円	コーディネーター1名の派遣 (宿泊交通費別途)
備品使用料	50,000円	当協会の備品使用料 発送費別途
バス借り上げ料金	50,000円	現地フィールドワークで利用 する場合に発生
消耗品費	30,000円	食料・水などの消耗品購入 1,000円×30名参加の場合

### 【料金に関する注意事項】

- ・避難所となる施設や社内に備えている備品を使用する場合、備品使用料や消耗品費が異なります。
- ・体験中の怪我等に備えるため、傷害保険に加入することをお勧めしています。

# 実施までの流れ

- ① **お問合せ・ヒアリング...**  
まずはお問合せをいただき、プログラムの活用について一緒に検討させていただきます。
- ② **見積書作成...**  
ヒアリングに基づいて見積書を作成いたします。※見積提出までは無料となります。
- ③ **実施決定・下見訪問...**  
実施が決定した場合、フィールドの設定・確認のため、担当者が現地を訪問いたします。
- ④ **実施に向けた準備・調整...**  
電話やメールで連絡調整しながら、本番への準備を進めます。
- ⑤ **本番...**  
2日間の防災キャンプそなえを実施します。
- ⑥ **精算...**  
プログラム実施後に請求書を発行します。
- ⑦ **実施特典** → → → 次のページで確認してください！！

## 【実施に関する注意事項】

- ・参加人数はよりプログラムの効果を高めるため20名以上（～60名）に設定しています。
- ・実施にあたっては実施希望日の2ヶ月前までのご予約をお願いいたします。

# 実施特典

## 特典①

～運営者が語る避難所生活オンライン～  
1回無料提供

通常は1回22,000円～のオンライン語り部を、本プログラム実施の場合事前もしくは事後に1回無料でご提供いたします。

本プログラムの事前事後の研修や学習にお役立てください。



## 特典②

語り部講演会の割引開催

通常は1本20,000円～（交通費別途）の出張講演を、本プログラム実施の1日目もしくは2日目に講師料半額ですることが可能です。企業や地域でのセミナーや講演会でお役立てください。

※会場等は主催団体様にご用意いただきます  
※派遣コーディネーターが講演の講師を務めます



# 私たちだからこそ提供できる「備え」

避難訓練は毎年行っていた  
避難「所」訓練は行ったことがない  
「やったことがある」経験を持つことの重要性を知った

災害で命が失われないように  
この地域から「備え」を伝えていきたい

実際の災害が起きても  
しっかり行動できるように